

あいらんのおっちゃんと共に生きる

社会福祉法人石井記念愛染園 あいらん地域総合相談窓口

高市 里美 ●社会福祉法人石井記念愛染園 あいらん地域総合相談窓口



要旨

大阪市西成区菟之茶屋地域には、『釜ヶ崎』、『あいらん』という地図にはない呼び名がある。1960～70年代は労働者の街として、その後はホームレスの街として、そして現在は、日本で一番寿命が短い、独居老人と福祉の街になっている。

あいらん地域は99%が独居の男性で、高齢化が進み、それに伴い、認知症の人も急激に増加している。孤独死率も非常に高く、相談を受け駆けつけたときはすでに亡くなっているというケースもあり、相談を受けてからでは遅いのである。

家族もなく、3畳一間の部屋でひっそりと暮らすおっちゃんたちに出てきてもらうには、気軽に相談してもらうにはどうしたらいいのかと考えた結果、楽しいこと、生きがいを感じられること、おっちゃん同士のつながりを持つ場所を作るのがいいのでは！と思いついた次第だ。

人生の先輩であるおっちゃんたちと、共に笑い、共に歌い、近所のおばちゃん的な関係性を築き、問題が大きくなる前に気づける環境を整え、ひとりぼっちで悩んだり、死んだりするおっちゃんを一人でも少なくしたいとがんばっている。

1. あいらん地域総合相談窓口の特徴

大阪市24区の中には、地域包括支援センターが66か所、地域包括支援センターと連携し、より身近な相談窓口として、概ね中学校区に1つの割合で総合相談窓口（以下「ランチ」と表記）が68か所設置されている。西成区には、地域包括支援センターが4か所、ランチが6か所ある。その中のひとつが、あいらんランチだ。ほとんどのランチが職員1人体制だが、あいらんランチは、地域の特殊性を鑑み2人体制となっている。

地域の高齢者やその家族から、介護や福祉に関する相談を受け、訪問し実態を把握して、必要なサービスにつなげるのが主な仕事内容。しかし、あいらん地域の場合、介護や福祉につなげる以前の問題として、お金がない、家がない、通院、入院できない（低年金者でお金がなく受診できない、自己退院を繰り返し受け入れてくれる病院がない等）、なかには戸籍がないという相談もあり、必要なサービスにつなぐまでには、非常に長い支援期間と、多職種との連携が必要になる。

生活保護受給者は、昔は労働者が利用していた簡易宿泊所（ドヤ）を転用した、3畳一間の福祉アパートに住んでいる人が多く、ほとんどが家族とは疎遠な独居の男性高齢者（以下「おっちゃん」と表記）となっている。相談内容は、「最近姿を見かけないので様子を見てほしい」「通帳やカード、財布がどこにいったかわからないと言っている」「家がわからなくなり警察に保護されている。迎えに行って介護につなげてほしい」など、アパートの管理人、区のケースワーカーからの相談が多く、本人からの相談はほとんどない。問題が外に現れてからの相談なので、問

題はかなり重症化している。

私たちが訪問し、目の当たりにするおっちゃんは、若い時は肉体労働に従事し、何らかの事情で働けなくなり一人暮らしを長年続けている、できれば誰の世話にもなりたくないと思っているちょっと頑固なおっちゃんである。体調不良で動けない状態でも、通院を拒否するおっちゃん。アルコール依存症でいつでも酔っぱらっているおっちゃん。薬物依存症の影響で、幻聴に苦しむおっちゃん。認知症が進行し、一人暮らしが困難になっているおっちゃん等である。家族がないので、訪問したその時から支援が始まる。食事、衛生面などの生活環境を整え、医療につなげ、介護申請し、必要なサービスにつなげるまで、3か月から半年かかる。通院拒否や、暴言、暴力など問題行動のあるケースでは、1年以上関わり続けることもある。

私たちがいつも思うことは、「もう少し早い段階で支援を始めたかった」ということだ。おっちゃんたちが元気なうちに、困りごとが大きくなる前に気づくことができれば、おっちゃんも、私たちが助かるのだ。でも、さまざまな苦勞の末、現在の生活に至っている人生の先輩、一人暮らしで、人とのかかわりを避ける傾向にあるおっちゃんから、どうすれば本音を聞き出せるのか悩んだが、とりあえず手当たり次第にいろいろやってみることにした。

2. あいりんランチの取り組み

①ラジオ体操

毎週水曜16時～／場所：仏現寺公園

工事現場でも朝礼の時行われているラジオ体操なら、おっちゃんたちが気軽に参加してくれるかとも思い始めた。初めは職員だけで、おっ



炊き出し

ちゃんたちは遠巻きに見ているか、見て見ぬふりをして通り過ぎていたが、そのうち哀れに思ったおっちゃんたちが参加してくれるようになった。2日目からは、スタンプ10個たまると、ふれあい喫茶の券(100円)1枚と交換できる、おたのしみ出席カードを参加者に配り、やる気UPをねらった。

今では、通りすがりのヘルパーさん、警察官、ガードマンが参加してくれたり、アパートの管理人仲間のおばちゃんたちが参加してくれたり、公園に隣接するマンションのベランダで、アパートの階段踊り場で一緒に体操する人もいます。

ラジオ体操第1、第2が終わると、お茶を配り、スタンプを押す。おっちゃんたちと世間話をして、顔が見えなかったおっちゃんの情報を集める。

②忘れん坊茶屋

毎月1回14時～15時／場所：西成市民館3階講堂

認知症の人、認知症の友だちがいる人、これから認知症になるかもしれない人が気軽に参加できる認知症カフェ。認知症の症状をわかりやすくまとめたテーマソング、『あっぱれ!忘れん坊将軍』の歌を必ず歌う。歌詞の中に「助けてもろたら笑える未来、みんなで仲良く歳とろあいりん!」という部分があり、一人で悩まないよう呼びかけている。



忘れん坊茶屋

参加費200円で、洋菓子か和菓子を選んでもらい、飲み物も4種類から選べるようになっている。毎月、歌、マジック、南京玉すだれ等のゲストにボランティアで来てもらい、おっちゃんたちと一緒に楽しんでいる。おっちゃんたちにとって200円は大金だ。参加したくても参加できないおっちゃんもいれば、生活保護費をもらったらずぐに200円預けにくるおっちゃんもいる。お金には困っていない様子なのに、服が汚れてお風呂に入っていないおっちゃん（認知症の進行具合）、耳が聞こえにくい感じのおっちゃん、目が見えにくい感じのおっちゃん、入れ歯の具合が悪いおっちゃんを観察する。住所のある人には必ず連絡先を聞くようにし、気になったおっちゃんの家には訪問している。6月にはカラオケ大会、12月にはクリスマス会を開催している。

③らぶりん体操

毎月1回14時～15時半／場所：西成市民館3階講堂

認知症・介護予防体操である。ミュージック・ケア、レクリエーションインストラクター、介護予防運動指導員の資格を持つ職員が、安全に楽しく効果的で、達成感の味わえる運動を組み合わせで行っている。自己紹介、早口言葉、楽器を使った体操、手作りのボールやゴム紐を使った体操、歌のコーナー（テーマソング『カマのおっちゃんの唄』、童謡、唱歌、演歌など）を組み合

わせ、笑顔いっぱい、あっという間の2時間半となる。

④くつしたわかボランティア

火曜～金曜9時～11時／場所：西成市民館2階和室

靴下工場から約50kg500円で購入した廃材（つま先部分を切り落としたときにできるわか）から、ホコリ、糸くずを取り、きれいにするボランティア。誰でも、時間内ならいつでも好きな時間に参加できる。視力障がいメンバーは、わかを紐に通したり、数を数えたりしている。お茶を飲みながら、演歌を聞きながらの、心和む居場所である。

きれいになったわかには、地域の女性ボランティアの手によって、かわいい遊び道具になり、全国の保育所、高齢者施設、病院等に無料で配布している。笑顔の写真や、お礼の手紙が、ボランティアの皆さんのやる気につながり、生きがいづくりにつながっている。



くつしたわか

⑤健康相談会

年4回土曜14時～15時半／場所：西成市民館2階和室

愛染橋病院の看護師2名に来てもらい、定期的に健康相談会を行っている。体重、身長、血圧を測定し、おっちゃんたちの話をじっくりと聞いてもらう。いつもは、住所、氏名、生年月日を教えてくれないおっちゃんが、看護師に聞かれると素直に答えていたり、私たちには話さな



健康相談会

い病歴や持病を、看護師には話してくれるので、情報収集にとっても役立っている。また、私たちが通院を勧めても絶対に拒否するおっちゃんが、看護師に言われてすぐに通院し、大事に至らなかった例もある。

⑥体力測定

年2回(6・12月)14時～16時／場所：西成市民館2階和室・洋室

握力測定(筋力)・開眼片足立ち(バランス力)・タイム・アップ・ゴー(敏捷性)・長座位体前屈(柔軟性)・最大歩行速度(歩行能力)の5つを測定し、5段階評価し5角形のグラフにして説明している。特徴は、個人差が非常にあること、80代より70代のほうが体力のないこと、握力、歩行能力の低下が顕著なことだ。肉体労働に従事していた影響で、膝や腰、首の骨に疾患を抱えている人が多く、自転車が必要な移動手段になっている。みなさんに、歩いて買い物に行くよう勧めている。

⑦忘れん坊教室

年2回(2・8月)14時～15時半／場所：西成市民館3階講堂

おっちゃんたちにわかりやすいことを一番に考えた認知症サポーター養成講座を年2回開催している。「ポケたらどうしよう」を「ポケても大丈夫に」をテーマに、地域のケアマネやヘルパー、

実際にデイサービスに通っている高齢者を講師として招き、あいりん地域に即した介護情報を提供している。地域包括支援センターには、認知症の病状についてパワーポイントを使い、わかりやすく説明してもらっている。また、〇×クイズ、寸劇も行っている。寸劇には、地域のおっちゃんたちに役者として参加してもらい、より認知症を身近な問題として感じてもらえるようにしている。認知症の人にやさしいあいりん地域にしようと呼びかけている。

3. これからもおっちゃんたちと共に

手当たり次第始めてまる4年。おっちゃんたちと共にいろいろ経験し、信頼関係も深まった。ゴミ屋敷からの救済、家賃滞納者の生活立て直しなど、問題が早期発見できたおかげで、助かった事例がいくつもある。

あいりんランチを応援し、共に楽しもうとしてくれるおっちゃんたち(約80名)には、感謝の気持ちをこめて、手書きの年賀状、暑中見舞い、手作りの誕生日カードを送っている。

あいりんのおっちゃんたちが、1日でも長く幸せに暮らせるように、たった一人で死んでいなくてもいいように、これからも多職種と連携しながら、共に生きるという気持ちを忘れず楽しくがんばっていききたいと思う。



忘れん坊教室